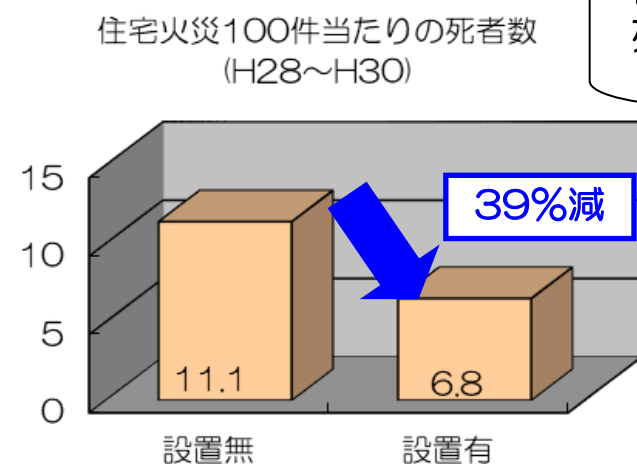


住宅火災から大切な命を守るため、 住宅用火災警報器を設置しましょう！

平成23年6月1日から、全ての住宅に住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の設置が義務付けられています。まだ、設置していない世帯については、住警器を設置しましょう。

◎設置効果は？



住警器を設置すれば、火災発生時の死亡リスクが大幅に減少します。



◎家のどこに取付ければいいの？

住警器の基本的な取付け場所は寝室です。また、寝室が2階の場合には、階段の上端（天井部分）にも設置が必要とされています。

◎お宅の住警器、そろそろ交換時期ではありませんか？

住警器は古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなるおそれがあります。10年を目安に交換しましょう。

◎住警器設置支援について

自ら設置することが困難な世帯を対象に、消防職員による設置支援を行っています。なお、住警器については、ご自身で購入していただく必要があります。

気軽にご相談ください。

【問合せ先】 田辺市消防本部予防課
Tel0739-26-9954（予防課直通）



令和2年10月号 公民館だより

稲成

発行：稲成公民館

館長：山田 能久 主事：津田 祐司

事務所：田辺市高雄一丁目23番1号

市民総合センター内

TEL：26-4925 FAX：25-6029

田辺市ホームページ <http://www.city.tanabe.lg.jp/>

稲成公民館区 人口 及び 世帯数 令和2年8月末現在

人口3,284人 世帯数1,451世帯 男性1,554人 女性1,730人

未来へつなぐ道
田辺市

子どもたちの夢を乗せて帰還中の「はやぶさ2」館長 山田 能久

我が家で巣立ったツバメも早や南洋へ旅立ちました。季節の進むのは早くあんなに暑い、暑いと言っていた夏が過ぎ去り田の稲刈りも終わりました。国内では、安倍総理が体調不良で突然に辞任され、急ぎ自民党総裁選が実施し菅さんが選任され、国会が開かれて菅内閣が誕生しました。

今は、何をおいても「新型コロナウイルス対策」が最重要で、経済を立て直すことと併せて日本を良い方向へ導いてほしいですね。コロナの感染者は、世界中で3,000万人を超え死者も100万人に近づいていて収束の見通しもなく途上国で広がっていて、国際協調して取り組まなければならないのに大国は自国主義が強く、何ともならない状況になっています。

そんな中でも、秋は1年の中で一番空気が澄んでいる季節で天気の良い日に夜空を仰いで見ると、広大な宇宙の中へ吸い込まれてしまいそうになり、地球上で起きている出来事など小さなものに見えてきます。その大宇宙の中で、今、日本の小惑星探査機「はやぶさ2」が夜空の遥か彼方から、懸命に地球に向かって帰還中です。「はやぶさ2」は、小惑星イトカワに行つてそのかけらを持ち帰った「はやぶさ」の後継機として、2014年12月に種子島宇宙センターから打ち上げられました。

目的地のリュウグウに到着したのは、3年半後の2018年6月のことです。リュウグウに到着する直前に、「はやぶさ2」から送られてきた画像には、そろばん玉のような形をしたリュウグウの姿が映し出されたのです。地球から8億kmと想像もできない遠いところからの素晴らしい映像には、日本の技術水準の高さを示し私たちも誇らしい気持ちになりました。そしてリュウグウは想定していた表面よりゴツゴツの岩石だらけで、岩石のかけらを地球に持ち帰るには最初は100m四方の場所へ着陸できればいいと考えていたが、当初の予定を大きく変更して6mの円の中へピンポイントで着陸しなければならなくなりました。これは、例えば上空20kmから野球場へ降りるはずだったところが、ピッチャーマウンド上に正確に降りなければならなくなったのです。

この失敗のできない難しいミッションも見事成功させ、岩石を採取して地球へ向かっているのです。今年の12月に「はやぶさ2」は、カプセルを切り離したあとに今度は次の小惑星「1998 KY 26」へ向かわせ、10年以上かかって100億kmを飛行して調査するのです。このミッションも是非成功してほしいですね。

宇宙への夢は、私たちにも身近になります。それは、串本町にできる民間のロケット発射場も来年の夏に完成し、1号機の発射を目指しています。ロケットの発射する時は、多くの子どもたちと一緒に見学に行きたいものですね。宇宙も近くなってきました。

令和2年度 第1回稲成小学校学社融合推進協議会を開催しました

去る9月15日（火）、第1回稲成小学校学社融合推進協議会を開催いたしました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、長期間にわたり開催を見合わせていたところですが、ようやく開催することができました。各委員に委嘱状を交付した後、授業の様子を参観させていただきました。子どもたちは、運動会の練習では一生懸命に走ったり、ダンスをしていました。また、教室での授業においても落ち着いた様子で学習していました。

参観の後、学校から今年度の学校運営方針（スクールプラン）と取組についての説明を受け、意見交換や質疑応答が行われました。

授業の様子



令和2年度の稲成小学校学社融合推進協議会の委員の皆さんは以下のとおりです。
(敬称略)

会 長	山田 能久	稲成公民館長
副会長	榎本 哲也	稲成愛郷会会長
委 員	辻本 幸生	民生児童委員
委 員	平 洋子	民生児童委員
委 員	津田 康代	民生児童委員
委 員	辻本 匡樹	育友会会長
委 員	永立 州俐	校長
事務局	澤田 善代	教頭
事務局	津田 祐司	公民館主事

令和2年度 田辺市学社融合夏季研修会を開催しました

田辺市では、平成19年度より学校と公民館（地域）が連携し、地域の特色を生かした学社融合事業を実践しており、その取組の更なる進化・発展を図るため、平成30年度から学社融合推進協議会を設置し、学校運営や学校の課題に対して保護者や地域住民が参画できる仕組みを構築し、互いに知恵と意見を出し合いながら地域と連携した学校教育活動の在り方、学校支援を通じた地域づくりに取組んでいます。

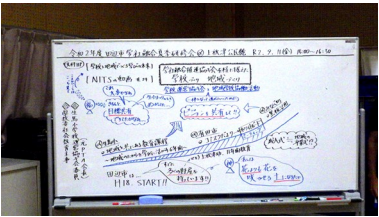


学社融合推進協議会が発足して3年目となる今年度は、今までの取組を振り返り、一層の識見を深め内容の充実を図ることを目的として、「田辺市学社融合推進協議会が目指す未来の姿～地域に開かれた学校づくり・学校を核とした地域づくり～」をテーマに本研修会を開催しました。本研修会は、毎年市内の公民館長、小中学校の校長、幼稚園の園長が一同に会し実施していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、対象者を4ブロックに分けて開催し、中部及び秋津谷地域では、去る9月11日（金）に上秋津農村環境改善センターにて開催しました。

【研修内容】

- 実践事例発表 上秋津幼稚園の実践～支え合い学ぶ合う～地域と共にある幼稚園を目指して～
- 講演 『学社融合推進協議会を核に据えた 学校づくり 地域づくり』
～学校運営協議会と地域学校協働活動が両輪となって進めるコミュニティスクール～
- 講師 和歌山県教育庁 紀南教育事務所 社会教育主事 福田 勝也 様

上秋津幼稚園の実践事例発表では、幼稚園、保護者、小・中学校、地域の方々との融合を図る中で、力を合わせて地域の子どもたちを育てようという共通認識が生まれ、様々な取組を実践している様子が紹介されました。また、講演では社会教育主事としての立場だけでなく、一人の保護者や学校運営協議会会長（生馬小学校）としての視点も交え、学社融合推進協議会を核とした学校・地域づくりの在り方やホワイトボードを有効に活用した会議（ホワイトボードミーティング）の方法について分かりやすくお話をいただきました。



※ホワイトボードミーティング

会議で出た意見等をホワイトボードにまとめ、写真等で保存しておくことで議事録として活用できます。

稲成公民館 社会見学の中止について

毎年、10月に開催している「稲成公民館 社会見学」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、慎重に開催の可能性を検討してまいりましたが、この夏の第2波の流行等から皆様方の健康と安全の確保のため、**今年度は中止**とさせていただきます。

本行事を楽しみにしておられた方も多くおられることとは存じますが、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。